



氣田 量子
(自民公明クラブ)

「行かない市役所」の実現を

環境整備に取り組む

問 各種証明書のオンライン申請手続について、市LINE公式アカウントのホーム画面から直接申請できるように改善する予定は。

答 令和8年度の実施に向け検討を進めます。

問 移動負担の大きい子育て世帯が時間や場所にとらわれず、LINEで一連の手続を完結できる「行かない市役所」実現に向けた考えは。

答 令和7年度中に策定予定の窓口業務DXの方向性や改善策をまとめたロードマップに基づいて、今後、環境の整備を進め、さらなる利便性の向上を目指します。

問 ウェルビーイング（幸福度）を数値化し、まちづくりの指針として捉える考えは。

答 現在策定中の第3次十和田市総合計画の策定方針では、市民一人一人の幸せの実感を幸福度指標として把握し、施策の立案に反映することとしています。

問 庁舎障がい者駐車場に屋根を架ける考えは。

答 多額の費用が見込まれ、現在の財政状況から設置は難しいと考えていますが、必要性は認識していますので、まずは関係団体から意見を伺いたいと考えています。

問 成年後見制度の利用者増加が見込まれる中、市民後見人への活動支援は。

答 上十三圏域での養成講座やフォローアップ研修を実施しているほか、令和8年2月には、新たに意見交換会の開催を予定しています。

問 通知書等の送付先を後見人等に変更する際の手続を一括化し、負担を軽減する考えは。

答 窓口業務のDXの取組や、令和8年度の市組織再編による「くらし窓口部」の設置を見据えて支援体制を検討していきます。



斉藤 重美
(自民公明クラブ)

森林分野における J-クレジットの創出支援を

独自の支援は考えていない

問 森林分野におけるJ-クレジット制度(※)には、どのようなメニューがあるか。

※省エネルギー設備の導入や適切な森林管理等による温室効果ガスの排出削減量を国がクレジットとして認証する制度。クレジットの創出者は販売収益を新たな設備投資などに充てることができ、クレジットの購入者は大きな投資を伴わず、削減量を自らの実績にすることが可能となる。

答 ①間伐等の適切な施業により、森林の成長や木材利用等を通じ二酸化炭素の吸収を図る森林経営活動、②森林以外の土地で新たな植林により、二酸化炭素の吸収を図る植林活動、③本来森林であるべき土地のうち樹木が育成していない場所での再造林により、二酸化炭素の吸収を図る再造林活動となります。

問 山林伐採後の植林などに関心を寄せるためにも、森林分野におけるJ-クレジットの創出について、市で支援ができないか。

答 認証に係る手続が煩雑かつ専門的である上に、高額な費用負担が課題となっていますが、国により書類作成や審査費用に対する支援が行われていることから、現段階では独自の支援は考えていません。

問 主食用米「はれわたari」の種子が手に入りにくい状況となっている要因は。

答 県によると、一般的に水稻の種子は、2年前に全国農業協同組合連合会などから提出された栽培希望数量に基づき、公益社団法人農産物改良協会によって生産が行われています。はれわたariは特A評価を得ている品種であることに加え、昨今の米の概算金の高騰によって作付面積が増え、種子を希望する農家が想定以上に増加したため、2年前に計画した数量と現在の農家が希望する数量との間に乖離が生じていることが要因です。